

河内長野市内全小学校区で住宅用火災警報器の普及啓発活動を実施

～避難行動要支援者と避難支援等関係者との連携強化～

河内長野市消防本部は、平成29年度から5か年で市内の住宅用火災警報器設置率の向上のため、市内13小学校区のまちづくり協議会を中心として、住宅用火災警報器の必要性についての説明会、DVD上映、アンケート調査等を実施します。

今年度については、上記の活動に加えて、一般社団法人 全国消防機器協会が行っている、平成29年度住宅用火災警報器等配布モデル事業に参画しました。

本事業では、住宅用火災警報器100個、住宅用消火器25本、防災製品25セットの無償配布を受け、松ヶ丘連合町会内の一人暮らしの高齢者等避難行動要支援者宅に、地域の避難支援等関係者が出向き、寝室、階段室等法令で義務設置となっている場所に住宅用火災警報器の設置を行いました。



▲贈呈式の様子



▲住宅用火災警報器を設置

また、併せて地域の見守り活動「顔の見える関係」の確認等を行い、地域防災力の強化を図っています。

このほか、住宅用火災警報器の無償配布の対象とならない人で、現在未設置の場合には共同購入を呼びかけ、住宅用火災警報器の設置率のさらなる向上を呼びかけています。

【住宅用火災警報器等配布モデル事業の内容】

平成29年9月1日～21日の「住宅防火・防災キャンペーン」に併せて、松ヶ丘地区で選定した、避難行動要支援者宅に住宅用火災警報器、住宅用消火器の設置、防災物品の配布を行うもの。